

宮城ゼミナール フィールドワーク ～奈良県葛城市の現状と課題～

宮城ゼミナール 3回生 総合経営学部 経営学科 古川 里奈/総合経営学部 経営学科 林 大輝/総合経営学部 商学科 地頭 佳祐

作成期日：2016年11月15日

研究背景

近年、日本では地域社会の高齢化、若年層の減少に伴う地域の人口減少、雇用機会の不足に伴う地方から都市部への労働力移動といった課題を抱えています。そこで様々な地域では外部からの移住、集客、定住を必要としています。これらの課題を解決する一つの糸口として、観光客の受入が地域から期待されています。私たち宮城ゼミナールでは以前から、三重県名張市の観光・マーケティング調査をしています。今年度から新たに奈良県葛城市をプロジェクトに入れ、三重県名張市で学んだことを取り入れながら活動を進めています。

活動方法

- 現地調査:** 現地に行かないと分からない交通アクセスや現地の雰囲気を知るために現地調査へ行きました。
- 二次データの分析:** 葛城市の観光客の推移、宿泊施設、交通などを知るために二次データの分析をしました。
- イベントへの参加:** 現地の住民の方と実際にふれあい、一緒に葛城市を盛り上げるため、2016年9月28日から10月2日、奈良県葛城市ゆうあいステーションで開催された葛城発信アートFAIR2016の実行委員に参加しました。

活動対象地の選定理由

まず1つ目は、好立地にもかかわらず、知名度が低いということです。2つ目は文化資源や自然環境が整っているにもかかわらず、体験観光の知名度があまり低いということです。3つ目は、他府県出身の学生が提案するため、客観的な目で調査でき意見が反映されやすいということです。これらのことが、観光・マーケティングの提案を行っている宮城ゼミの方針と一致したため、奈良県葛城市を活動対象地に選定しました。

人口の推移

葛城市の人口は、年々増加傾向にあり、平成25年から26年で134人増加、26年から27年で51人増加しています。しかし、市の人口構造は変化していて、高齢化率（65歳以上の人口比率）が徐々に増加し、それに伴い生産年齢人口（15歳～64歳）の比率は減少、また、年少人口（0歳～14歳）の比率も減少しています。これらのことから、葛城市の将来人口はどんどん減少することになり、これを改善するためには、外部からの若者の誘致が必要です。図1参照

観光客の推移

既存のデータでは葛城市だけで調べた観光客の推移はありませんでしたが、奈良県全体を4つの地域（表1参照）に分けて葛城市とその周辺の観光客の合計の推移を調べたものがありました。その結果によると、観光客数は年々減少傾向にあり、平成24年に5,414千人（奈良県全体の15.8%）で平成25年には5,358千人（奈良県全体の15.1%）、さらに平成26年には5,279千人（奈良県全体の13.9%）となっています。図2参照

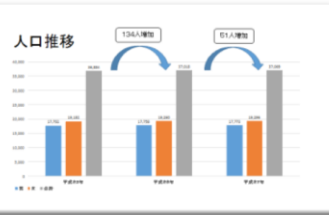


図1 葛城市の調査における人口の推移



図2 観光客数の推移

エリア	市町村
A(県北部)	奈良市、生駒市、山添村
B(県西部)	葛城市、大和高田市、大和郡山市、御所市、香芝市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、上牧町、王寺町、広陵町、河合町
C(県東部)	天理市、橿原市、桜井市、宇陀市、曾爾村、御杖村、高取町、明日香村
D(県南部)	五條市、吉野市、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村

表1 観光客の推移を調べた4つの地区区分

研究（活動）結果

- 実際に現地調査に行きましたが、観光名所の看板や情報が少ないため、「営業しているのか?」「どの道を行けばいいのか?」が分かりにくく感じました。また道幅が狭く、車一台がギリギリ通れるかどうかの道なので、回るのが難しく感じました。さらに山の上の方になると駐車場も少ないという現状もありました。さらに、二次交通の問題の一つとして、観光地をつなげる葛城市コミュニティバスがあるが二時間半に一本しかなく、一つの観光名所に行き、巡り終えた後次のバスがなかなか来ないという事が挙げられると感じました。
- SNSの発信の状況を比較するために同じ奈良県東大寺のFacebookのコミュニティの「いいね!」数を見てみると、2016年11月15日の時点で1,155人だったのに対して、葛城市の相模館けはや座の「いいね!」数は、94人でした。これらの事から、葛城市全体はSNSを利用しての発信がうまく行えておらず、若者の誘致や葛城市の知名度を高めきれずにいるように感じました。
- 葛城発信アートFAIR2016のイベントの参加では、お客様はご家族でお越しの方が多く、若者のイベント参加者は少なかったです。

研究活動の限界

まず、葛城市の地域活性化について、住民の方の意見を聞いて、どのような町作りを望んでいるのかを調査してみる必要があると感じます。今までの活動では、市役所の方の意見を聞いただけで、住民の方の意見はまだ聞いていません。外部からの移住や観光客の方がたくさん来るようになれば、地域の雰囲気は当然変わってくると思うので、住民の方の意見も取り入れ、観光客の方も住民の方も、気持ちよく過ごせる町作りをする必要性があります。また、実際に観光に来ている方に、どのようなところに不満を感じたかを調査し、改善していく必要性も感じます。今の葛城市は、まだまだ改善していくべきところがあり、私たちが実際に現地に行き分かった研究（活動）結果で述べた内容と、観光客の方が不満に思った意見とが一致したものは、かなりの改善の必要性があると感じます。

研究成果の公開

2016年9月9日に阪南大学 あべのハルカスカンパスにて開催された、関西観光教育コンソーシアム主催の「学生活動成果発表会」に参加しました。私たちは「大阪商業大学 宮城ゼミナール2016年度活動報告」ということで、葛城市についての活動の中間報告を発表しました。残念ながら、今回は受賞となりませんでしたが、「奈良県葛城市での活動は今年度始めたばかりの活動であり、成果はこれから得られることが期待できる」との好評をいただきました。



写真1 学生活動成果発表会

今後の活動

葛城のイベントへもっと積極的に参加し、「イベントの中心にいる人」や「参加する人」、「葛城に住んでいる人たち」にヒアリング調査を行いたいと考えています。今のところ、11月に行われる「葛城山麓ワーク」への参加を考えています。他に自分たちが現場に行ってみて感じた、二次交通の問題解決策としてレンタルサイクルの設置や、実際にイベントに参加しての葛城市の「良さ」「楽しさ」また「観光情報」などを「SNS」を利用して広めるという、若者である私たちならではの情報発信の仕方を考えています。体験観光立案では今あるもの、今ある土地を利用して「農業」「酪農」を中心に葛城市の方、住民の方双方にメリットのあるものを立案、考察していきたいと考えています。